

滋賀県立

聴覚障害者センター

だより



— 97号 —

発行日／令和2年4月10日

発行所／草津市大路2丁目11-33

TEL 077-561-6111

FAX 077-565-6101

HP <https://shigajou.or.jp>

「ニュース」の企画・立案、制作の

ノウハウを学ぶ

「目で聴くテレビ」手話ディレクター講座に参加

令和2年2月21日(金)〜23日(日)
大阪府大東市アクロスで「目で聴くテレビ」手話ディレクター講座が開催されました。

この講座は、認定NPO法人障害者放送通信機構が制作・放送する手話と字幕の番組「目で聴くテレビ」の制作に当たり、企画・立案、制作指揮とともに、自らも撮影や編集作業を行うディレクターを希望する人々を対象に、技術と資質の向上を目的に開催されました。全国から5名が参加



頼みになる放送・為になる放送・楽しめる放送を!

まず、高田理事長より、「この通信機構は阪神淡路大震災の情報アクセシビリティの問題から、聞こえない人たちのためのテレビ番組を作ろうと立ち上げた経緯であり、研修を受けて、素晴らしい映像コンテンツの提供を期待したい」と挨拶されました。

その後、「目で聴くテレビ」のスタッフの柳さんと重田さんより、「目で聴くテレビ」の歴史や番組の紹介、「アイ・ドラゴン」の機能などの説明がありました。

ろう映画監督で、さがの映像祭審査委員長も務める大館さんより「聴覚障

害者が作る映像とは」のテーマの講義がありました。3つの「た」(頼みになる放送・為になる放送・楽しめる放送)、表現3原則(正確に・簡潔に・平易に)や、制作者としてのモットー、心掛ける3つの「気」など、映像サンプルを入れながら分かりやすく話して下さり、最後に、「プロ意識を持つこと、多面的に客観的に観る、幅広く公平に先入観を持たない、何でも興味を持つように」と話されました。

「視聴者はそこに行ったことがない」を念頭に!

「番組製作について」の講義では、今回の制作実習は「ニュース」でしたので、そのイロハを中心に学びました。「ニュース」の基本は、SMITH(いつ、どこで、だれが、何を、なぜ、どのように)と伝える目的、参加者、主催のインタビュ(声、感想)をいれ、何をどう伝えたいのかを明確にし、意識しながら制作していくこと。常に情報のアンテナも高く幅広く持つように意識する。「視聴者はそこに行ったことがない」ことを念頭に、どんな場面を撮るかを考えるなど、「ニュース」の企画の基本を学べたことが大きな収穫でした。

手話キャスターの個性をどう活かすか!

2日目は、イベントのニュースを配

信するために、併行開催している手話キャスターの受講生と撮影を行いました。手話キャスターと事前打ち合わせ、撮る場面などを確認しながら、色んなアングルを撮ったりしました。また、参加者のインタビュの仕方も色々なパターンをあげて撮影し、参加者の感想を引き出す難しさを改めて感じました。その後、編集作業を行い、テロップの効果を入れるなど工夫してみました。

3日目は、それぞれ編集した番組(5分)の講評を行い、各々の映像を発表し、指揮・制作したディレクターの編集意図や反省点等を説明し、手話キャスターも何に注意したかなどを話してから、意見交換を行いました。インタビュを行う時も座ってする、立ってするとの違いや手話キャスターの個性をどう引き出すかなど、様々な意見が出され、とても勉強になりました。

今回の研修は、「ニュース」コンテンツの企画、撮影、編集を中心に行い、手話キャスターをどう活用するか、また、事前打ち合わせ、現場での手話キャスターとコミュニケーションを図りながら、一緒に制作していく姿勢が大事だと強く感じ、これからの映像制作につながりたいと思った研修会でした。

(ビデオ制作担当 山口)

新規登録者の紹介／手話通訳者・要約筆記者

◇手話通訳者◇

井手吉 ひろみさん



感謝の気持ちと初心を忘れず、一步一步前進できるような努力を重ねていきたいです。ご指導の程よろしくお願いいたします。

井上いく子さん



この度、合格のご報告ができることを非常に嬉しく思います。ご指導いただいた全ての方々に感謝申し上げます。

河西 礼さん



手話の学習を支えてくださった皆様に感謝いたします。聴覚障害のある人の「知りたい」「伝えたい」気持ちを尊重した通訳を目指して頑張ります。

◇要約筆記者◇

岡部さゆりさん (手書き)



このたび、書きで活動させていただくことになりました。利用される方の役に立てるよう、努力していきたいと思っております。

奥田かおりさん (パソコン)



先生方や職員の皆様、本当にありがとうございました。今後とも努力していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

ようしくおねがいいたします



手話通訳士合格者

木村 真知子さん



合格通知を頂き、安堵と緊張。複雑な気持ちでおります。「初心忘るべからず」「日々精進」これからもよろしく申し上げます。

小澤 知美さん



手話通訳者養成講座から通訳士養成講座まで、士気高くご指導いただいた事を忘れず、絆を大切に、先輩方を目標にがんばります。

澤 美希さん



合格を手にし、より一層技術を磨く必要があると感じています。求められる手話通訳士になれるよう、ご指導よろしく申し上げます。

馬場 昌子さん



皆様から大きな力を頂き、育てていただきました。この場を借りて心から御礼申し上げます。知識、技術ともにまだまだ未熟ではございますが、憧れの先輩方に一步でも近づけるよう精進してまいります。これからもご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

曾根 万里子さん



熱心にご指導くださった方々、励ました方々、励まされたい方々、一緒に学んでくださった方々のお役に立てるよう、頑張ります。

中村 わかなさん



周りの方々の感謝の気持ちをお忘れず、自分の役割について考え、聴覚障害者を取り巻く問題についても、さらに意識を向けていきたいです。

手話トレーニングで、不安解消・スキルアップ！ —滋賀県登録手話通訳者 手話通訳技術UP学習会

（手話トレーニング）を開催しています！

手話トレーニングは、手話通訳活動の休止から活動再開をされる方をはじめ、手話通訳を練習したい方が自由に参加できる学習の場です。2019年度は7回開催し、延べ60人の参加がありました。

参加者主体の学習会

学習内容は、第1回から第3回まで



は聞き取り表現学習を、第4回、5回は読み取り学習、6回、7回は、ろう者の表現から学ぶ豊かな手話を学習しました。参加者どうしの意見交換を取り入れ、気づきと工夫、ろう者の視点を大切にしながら進めています。

手話通訳は、メッセージを受容し、理解し、保持し、再構成、そして表現といった一連の過程を行います。自分が何につまずくのか、何が苦手なのか。また、翻訳における言葉をどう選択していくか。翻訳に合う言葉は手話も日

本語もひとつではありません。参加者みんなでアイデアを出し合います。

気づきや励ましにの場に

休止から活動再開をするにあたり、不安や心配は当然あると思われれます。経験の少ない通訳者や、手話通訳試験

合格から日の浅い通訳者の不安も同じです。

学習をおして得られた自らの気づきや、仲間のアドバイスをもとに自信をつけ、手話通訳者として継続して活動することを期待しています。

手話通訳者を目指す人のための 手話ステップアップ講座を開催 —双方向で会話ができるレベルをめざして—

各市町主催の令和元年度手話奉仕員養成講座（基礎編）を修了し、令和2年度の滋賀県手話通訳者養成講座の受講を希望している方を対象に、「手話通訳者を目指す人のための手話ステップアップ講座」を開催しました。

講座は全5回で、今年1月から3月にかけて毎回土曜日の午後から滋賀県立聴覚障害者センターで実施し、県内各地から集まった9名の受講生が手話奉仕員養成講座で学んだ手話文法の復習を中心に学びました。

手話奉仕員養成講座では特定の聴覚障害者と日常会話ができる程度を到達目標とした養成を行います。現実にはなかなか厳しい状況です。手話を一方

的に表現するのではなく、双方向に会話ができ、初めて手話通訳者養成につながります。この手話ステップアップ講座の開催で、一人でも多く手話通訳者養成講座へつながることを期待します。



大津市聴覚障害者相談員設置事業 おおつ・みみサロン ～講義と体操と、おしゃべり会～

1月30日(木)明日都ふれあいプラザにて「こことからだの健康チェック」をテーマに開催、20名が参加しました。

講師は大津市保健予防課の中島美和さん。各自で「心の疲れのチェック」をシートに沿って記入。合計点数で安全ゾーンか危険ゾーンかを確認しました。うつ傾向を知る目安や、気持ち



の切り替え方法を学びました。講座に続いてスロトレ(ゆっくり動かし続ける体操)を行いました。まず体力チェックをして、3種類の体操を実

践。さらに続けて短時間でしたがおしゃべり会も行いました。ろう者と難聴者のグループに分かれましたが、ろう者グループは新型コロナウイルスが広がっていることから、自分の予防法を披露していました。

この日は難聴の人たちも9人集まり、楽しそうな笑い声が聞こえてきました。2時間があっという間に経過し、写真を撮るのも忘れてしまいました。

きこえの出張相談 ～センターを会場に相談会～

2月5日に滋賀県立聴覚障害者センターを会場に大津市きこえの出張相談を行いました。言語聴覚士の相談で一人40分。聴力相談室で聴力測定し、ゆっくりと聞こえにくさで困っていることなどお聞きすることができました。聞こえが低下すると、本人だけでなく家族も困ってしまいます。きれいな景色やおいしい物を食べたときのちょっとした感動も家族で分かち合いたい気持ちがあります。「もう、聞こえづらい母に伝えるのはしんどいのよ。」とおっしゃる娘さんも、実は感動を共有したいからこそ辛口になるのかな、と感じた相談日でした。



タツノオトシゴ

たつのおとしごは竜の落とし子で、縁起がいいと言われているのはご存じだろうか。鹿児島に、たつのおとしごを見れる施設があることは知っているかな。

鹿児島市の南方面にあり、砂蒸し風呂の有名な指宿市より車で30分走ったところ穎娃町(えいちょう)に、「タツノオトシゴハウス」がある。

先日、久しぶりに帰省したとき、初めて訪ねた。説明看板をみると、メスが産み出した卵をオスがふ化させ出産、育児する不思議な生態。だから、夫婦円満、安産祈願で重宝されている。

ここのハウスは、生のタツノオトシゴをたくさん見られ、癒やしの場になっている。鹿児島に行く機会があったら、タツノオトシゴハウスにも足を運んでみませんか？

※穎娃町(えいちょう)の方言はかなり難しく、英語(えいご)いや穎娃語(えいご)といわれている。
(K.Y)